

ロンドン名誉市民を 拝受しました



ロンドン・ギルドホールで行われた授賞式後の記念撮影



堀地 紀行
HORICHI Noriyuki

国士館大学理工学部基礎理学系教授
(本協会理事・本誌編集委員)

今年の3月19日に、図らずもロンドン・ギルドホールにおきまして、ロンドン市の名誉市民称号を授与されました。約10年にわたりロンドンに赴き、土木工学、構造工学を通じて知り合いましたロンドン市立大学のボズウェル先生はじめ、多くのお仲間と交流させていただいたことによるものと思います。

今回頂きましたロンドン名誉市民称号は、freedom of the city of London と称し、通称、freeman (英和中辞典;名誉市民)とも呼ばれます。

由来は、1235年ころに遡り、それ以前の市民は、王、もしくは領主に従属し、自由:freedomは与えられていませんでした。しかし、そのころ、商業、工業(ギルド)の従事者の中に、財産の所有や往來の自由を認められる有力な者も台頭し始め、そうしたメンバーがfreedom of the city と呼ばれるようになりました。

平等主義の行きわたった日本ではなじみは少ないですが、階級社会の名残の残るイギリスでは、現在

もその慣例が続き、年間60~70人ほどが、このタイトルを授与されているそうです。中高年が多いため、総勢で約2,000人ほどだそうです。

判り易い芸能人等の方々では、私の2週間ほど前は、『a bridge too far』や『battle of Britain』などに出演した、老優マイケル・ケインさん。私の30分後には『名探偵ポアロ』等に出演したダミアン・ルイスさん。次の週は『ハリーポッター』の作家J・K・ローリングさんが頂いたそうです。

昨年は、007の女性上司M役の年輩女優ジュディ・デンチさんなどだそうです。一般の職業の方やスポーツ選手も多数います。

こうしてみると、自分が頂いたことが思いもよらずミステリアスです。

メンバーには、年間5、6回の夕食会や午餐会、1、2回のゴルフ、1、2回の王室メンバー出席の茶会に出席が叶うそうですが、大変敷居が高くご遠慮することに成ると思います。



Freedomの証書